

学びの個別最適化を実現する教育活動

研究の目標

児童生徒一人一人の実態や学習状況の蓄積、分析、評価をもとに、個人の進捗や能力に応じた学びの場を提供することで、資質・能力の効果的な育成に資する教育活動の在り方を究明する。

■研究指定・委嘱地域(校) 東峰村教育委員会(東峰小学校・中学校)
筑後市教育委員会(松原小学校)

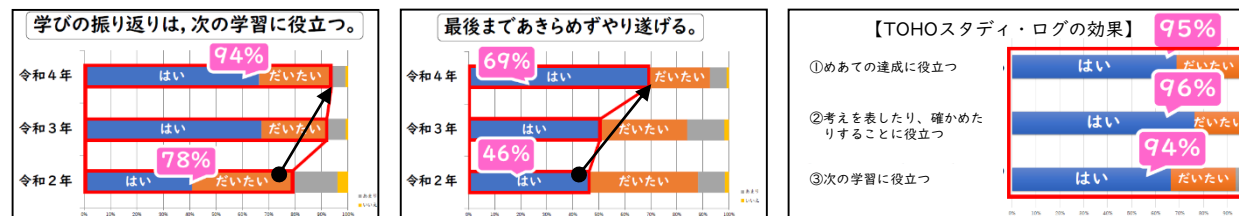
研究の内容

- 視点1:資質・能力を効果的に育成するための個人カルテ (ICT等) を活用した学習評価
- 視点2:個人カルテ (ICT等) に基づいた進捗や能力に応じた授業改善
- 視点3:個人カルテ (ICT等) を活用し学びの個別最適化を推進する組織体制づくり

研究の成果

東峰村の成果

3年間の研究で、以下の高まりがみられ、東峰小・中学校が目指す自らの学びの到達度や興味・関心、よさや可能性を俯瞰して捉え、自らの学習課題を選択・設定し、見通しをもって粘り強く課題解決して達成感を味わい、さらに新たな課題を選択・設定して主体的に学び続ける「自ら学びを創り出す子ども」に近づいた。

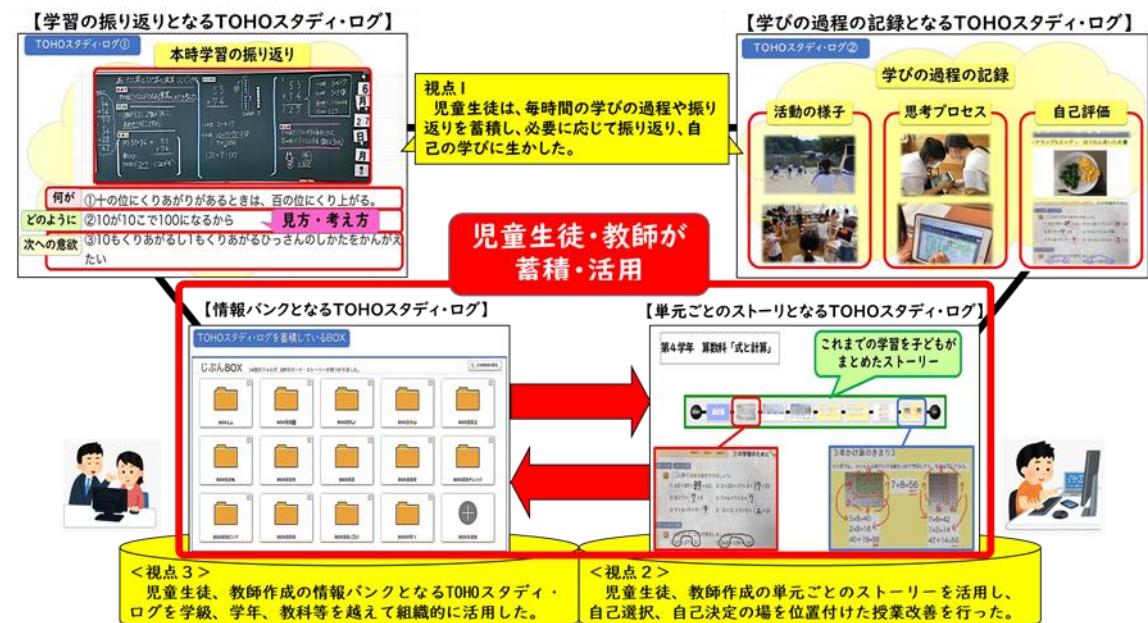


TOHOスタディ・ログを活用した学習過程を通すことで、上記のように、本時の学びを次時の学習に生かそうとする主体的な学びや粘り強く課題解決に取り組む学びが高まった。

目指す姿である（主体的な姿）（粘り強さ）に高まりがみられている。

おすすめポイント

東峰村の研究ポイント⇒児童生徒と教師が共に蓄積、活用する学習履歴

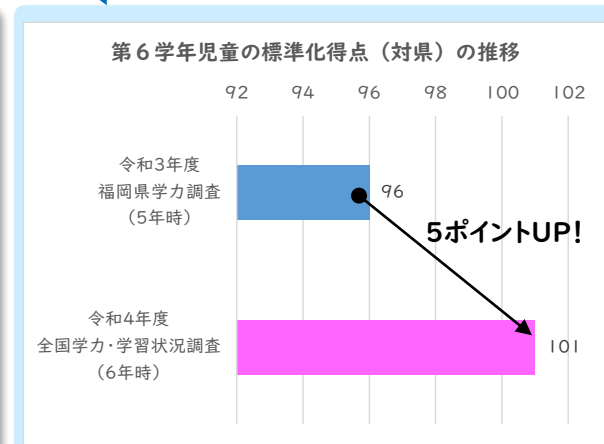
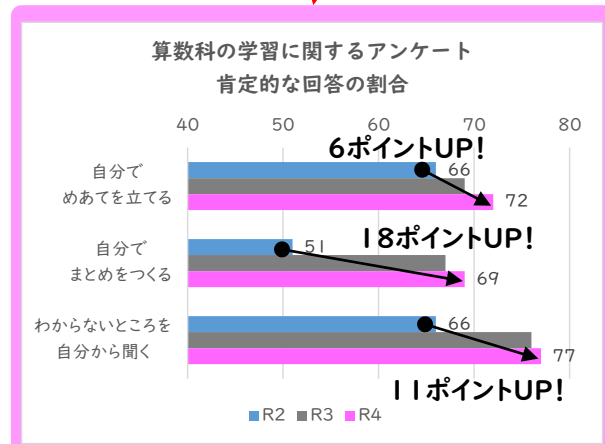


筑後市の成果

3年間の研究で、松原小学校が目指す自ら学習を調整しながら新たな知識や技能を進んで獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりしようとする「主体的に問題を解決する子供」に近づいた。

「自ら学習を調整」という点に着目すると・・・

「学力の定着」に着目すると・・・



筑後市の研究ポイント

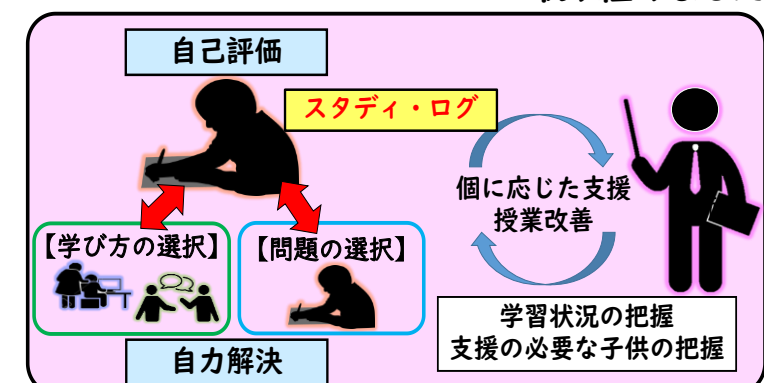
主体的に問題解決する子供の姿を目指して

【視点1】【視点2】に係る主なポイント
○タブレット端末を使用した学習履歴の蓄積
○子供の主体的な学び、教師の効果的な指導のための学習履歴の活用



個別最適な学びを推進するスタディ・ログの活用に取り組みました

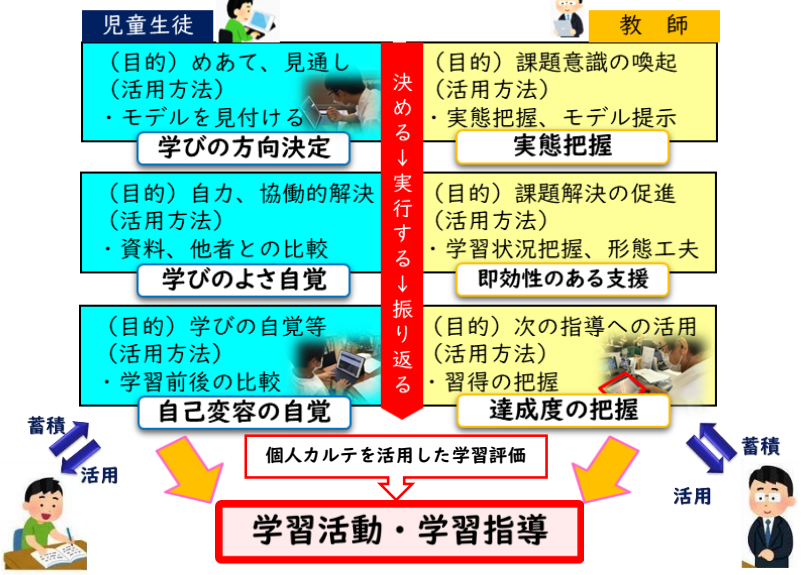
【視点3】に係る主なポイント
○教科を算数科に絞った取組
○役割を明確にした全職員による取組



研究の実際 ■ 視点1: 個人カルテを活用した学習評価

東峰村の実践 児童生徒自らが次の学習に向かうことができるようにするために、TOHOスタディ・ログの活用を行っています。

- TOHOスタディ・ログの活用について児童生徒、全教師で目的や活用方法を共有しながら取り組んでいる。

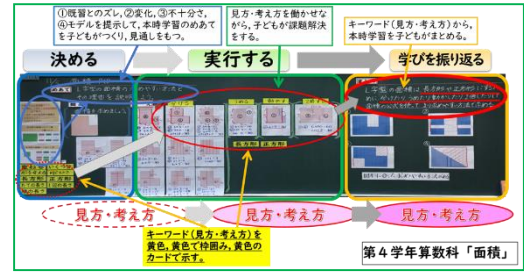


児童生徒は自己調整、学びの自覚、教師は児童生徒に対する個別対応、客観的な評価に活用している。

研究の実際 ■ 視点2: 進度や能力に応じた授業改善

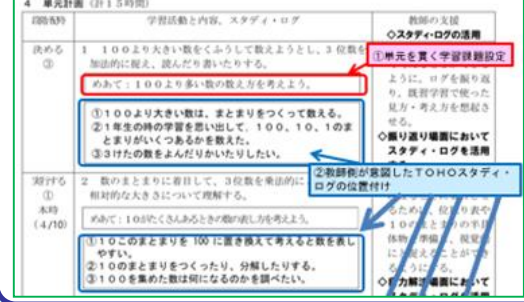
東峰村の実践 各教科等の深い学びを実現するために、蓄積した板書や単元指導計画をもとに授業改善を行います。

- 見方・考え方を働かせることができる教材研究、各教科で働かせる見方・考え方の分析に取り組んでいる。



板書を基に、見方・考え方がどのように働くかを整理した授業を行う。

- TOHOスタディ・ログを明示した単元指導計画の作成に取り組んでいる。

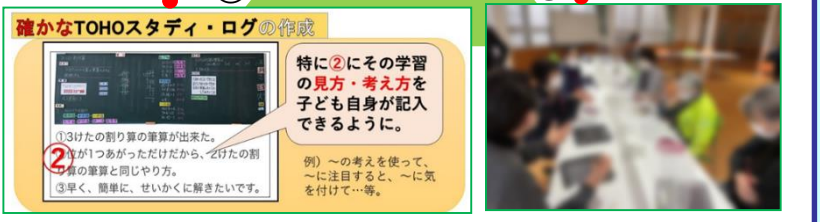


TOHOスタディ・ログが、児童生徒の意識の流れで適切に働くよう整理する。

研究の実際 ■ 視点3: 組織体制づくり

東峰村の実践 個別最適な学びの実現のために、全教職員が共通理解を図って研究を進めることができる取組を行っています。

- ①校内研究推進委員会、②ICT推進TOHOスタディ・ログ活用部、③学力分析部による児童生徒の実態に基づく、授業、取組の分析、情報の共有に取り組んでいる。



各委員会、各部の役割を明確にして、TOHOスタディ・ログの共有がいつでも、どこでも、速やかにできるように組織化している。

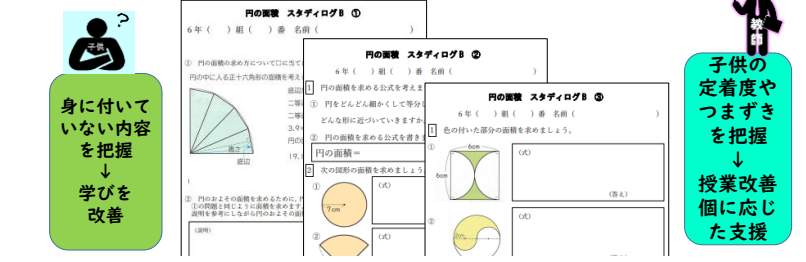
筑後市の実践

子供一人一人の学習状況の蓄積、分析、評価をするためにスタディ・ログ(学習履歴)を蓄積しています。

- 板書や振り返りの記述等、毎時間の学習内容・方法の履歴「スタディ・ログA」を蓄積している。



- 評価計画(※)に基づいて実施する形成的評価の履歴「スタディ・ログB」を蓄積している。

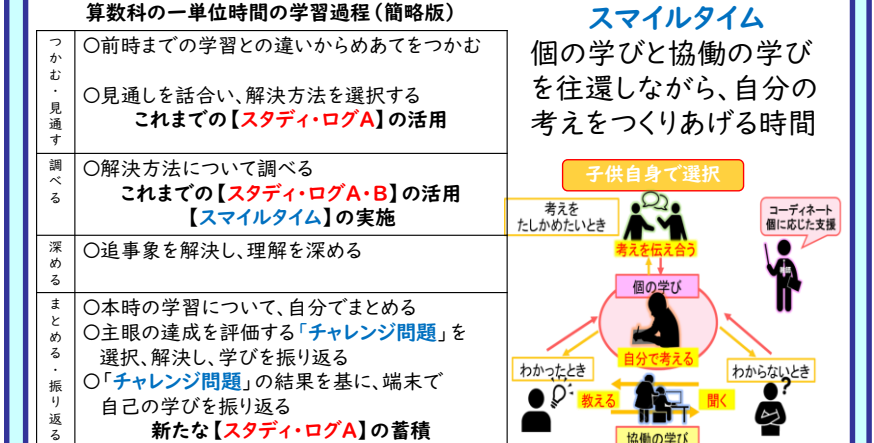


※ 毎時間の「ねらい・学習活動(スタディログAの実施計画を含む)」「評価規準・方法(スタディログBの実施計画を含む)」等を示したものを蓄積している。

筑後市の実践

個別最適な学びを実現するために、スタディ・ログに応じて学習の進度を調整したり、実態に応じた授業を工夫したりしています。

- スタディ・ログを活用し、個別最適な学びの実現に向けた算数科の授業づくりに取り組んでいる。



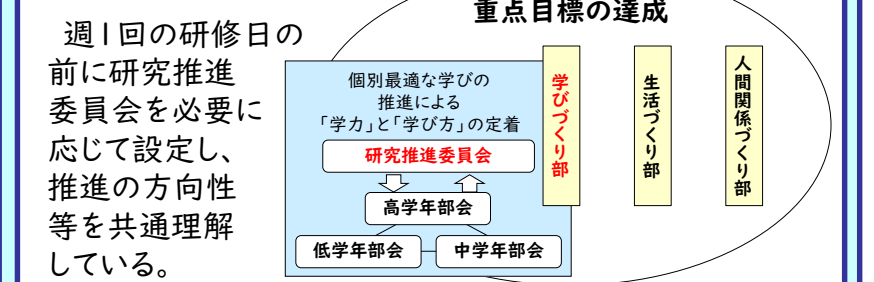
- 個別最適な学びの実現に向けた個に応じた支援の在り方を工夫している。

スタディ・ログから分析し、実施する個に応じた支援の例
・定着度に応じた振り返るべきスタディ・ログAの指示
・定着度に応じた教材(具体物・ヒントカード等)の提示

筑後市の実践

個別最適な学びを実現するために、推進に向けた組織を整えたり、各学年部による研究授業を行ったりしています。

- 個別最適な学びを推進するための組織体制を整備し、全職員で取り組んでいる。



- 週1回の研修日の前に研究推進委員会を必要に応じて設定し、推進の方向性等を共通理解している。
- 低・中・高学年部会を活用して、互いに授業を参観し、気付いたことを出し合う授業整理会を行っている。

【授業参観及び整理会の視点】
柱1: 主体的に問題解決する姿について
①スタディ・ログAを活用して問題解決する姿
②スマイルタイムで学びを選択する姿
柱2: 教師の授業改善や個に応じた支援について
①スタディ・ログBの結果を生かした授業改善
②スタディ・ログAとBの結果を生かした個に応じた支援